

◎長崎市のダブルスタンダードな行政運営を危惧

先週 25 日に出島表門橋が開通しました。昭和 26 年のスタートから 66 年の時を経ての開通には私も感無量の気持ちで式典に出席させていただき、故伊藤市長を思い出していました。基金創設に尽力された市長こそ、今日この日をさぞかし喜んでいらっしゃるだろうと。



平成の時代に表門橋まで架かりました。いよいよ最終目標の「海に浮かぶ出島」の実現に取り組むこととなります。完成目標は 2050 年となっていますが、私個人的にはせめてその半分の時間、あと 10 年で完成させてほしい、そのためには今後「河川改修」「国土の改良」「対象地域のビル」の立ち退き」「電車の軌道変更」等の課題があり、県と一体となり取り組む必要があるため、県に対し担当部署を設置するよう以前から要望しています。県庁跡地の整備のなかでも出島と一体となった観光の面からの整備計画も示されているので尚更です。

さて、オランダとのつながりを再確認した今般の行事のなかで、一方では長崎市は頑なに「小島養生所・分析究理所遺構の保存」については否定とも思わざるを得ない対応をとっています。「未来への懸け橋」の表門橋ができたこの時期に住民投票まで求められるような事態になってしまったとは皮肉なことです。市議会でのしっかりした議論を期待するところです。



また土曜日の報道では MICE 計画が九電工 G と優先交渉決定という記事が掲載されています。地元企業も入ったグループなのでなかなか言いづらい部分もありますが、正に「マジック」そのものです。私は当時市議会が「MICE の実現可能性調査の予算」を了解するところまでは致し方ないと思っておりましたが、昨年「MICE 事業者を公募する予算」まで了解してしまったのは間違いだったと思っています。MICE の建設の是非について結論が出ていないなか、当時の市サイドは「建設予算を上程する時（来年 2 月議会）に建設の是非についても議論してもらおう」との考えを示し、事業者公募を市議会に了解させたのですが、記事を読めばもうこれは決定したも同然の内容、ここまでのものが公表されてどうやって建設の是非について議論できるのか大いに疑問を持っています。まんまと…です。

私自身は今でもこの規模での MICE 建設については否定的な立場でいますが、この段階になっては「住民投票で信を問え」くらいしか無いのかもしれない。

紙面足らずで次回述べますが「長崎造船所幸町工場跡地」についても大きな問題を抱えており、長崎市（この件では県も）の消極的な対応は将来に禍根を残すと思っています。今般の委員会質疑で議論します。

2017 年 11 月 25 日 長崎新聞より